

稲梓地域景観ガイドラインについて

現在、下田市を6地域（稲梓、下田・本郷、白浜、朝日、蓮台寺、浜崎）に区分した上で、地域の景観特性に応じた景観形成方針、景観形成基準をきめ細やかに個別策定することを目的に、令和7年度から複数年を掛けて市内全域で地域住民によるワークショップを開催し、地域別の景観ガイドラインを作成しています。

令和7年度は稲梓地域の景観ガイドラインを作成することを目的に、全4回（10月17日、11月14日、12月12日、2月6日）、稲梓基幹集落センターにてワークショップを行っております。

ガイドラインを作成するとどうなるの？

地域ごとに詳細な方針、基準を記載することによって、その地域が有する景観特性を住民のみならず、関係する全ての人が理解でき、市民と事業者、市が協働で地域の景観整備・保全を図ることができます。

また、建築物や工作物について届出を市に提出することが必要となり、ガイドラインに沿うよう指導することもできます。

今後の地域別景観ガイドラインスケジュール

※今後変更となる可能性があります。

令和7年度 （※今年度）	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
稲梓地域	下田・本郷地域	白浜地域	朝日地域	稲生沢地域	浜崎地域



認定番号 151：稲梓の稲作風景

ワークショップの様子（第1回）



グループの代表者による発表



第1回結果まとめ

テーマ『稲梓地域の景観の現状と未来について考えよう！』

凡例 良い所・好きなお所、改善したい好きくない所、提案や取り組みべき課題

良好な環境 <ul style="list-style-type: none">里地里山<ul style="list-style-type: none">○川、田、道、家、山、空の配置バランスがよい (B)○水田、河川、山林、畑、田等の緑の多さ (C)○環境がいい 空気・水・せせざき音 (B・C)○廃墟や空き家が増えている (B)豊かな山<ul style="list-style-type: none">○自然豊かな山・川 (A)○やまがきれい (C)○春のヤマザクラ、秋の紅葉 (B)○森林景観は美しく見えるが、山中は荒廃状態 (A)○山が荒れて眺望を阻害している (A)○山からの眺望景観を改善したい (A)	美しい水田 <ul style="list-style-type: none">○水田地帯 (A)○最大の特徴は田んぼ！川と向かっての段々の傾斜風景 (A)○5月の美しい稲の風景がよい (A)○おのぼった水田、稲の緑など (B)○稲が黄金色になる秋の風景 (B)○風景がいい、歩きやすい (C) ○水田を維持する次世代がない ○農地が荒れている (A・B) ○高齢化、若者の減少で、耕作放棄地になりつつある (A) ○耕作放棄地による景観 (A・B・C) ○耕作放棄地にサクラやモモの木を植えたい (B)	歴史・文化 <ul style="list-style-type: none">○お寺・神社の風景：庭、大木、ご神木など (C)○石垣の景観 (C)○なまこ屋の蔵が残っている (C)○戦国期の歴史 (A)○山には火の神さまや、お庭の神様が祭られている (C) ○祭りが続けられない (A)	沿道の草木 <ul style="list-style-type: none">○沿道の樹木が繁茂している (B)○沿道の除草が足りていない (C)○近傍景観としての路肩草刈り (C)	危険箇所 <ul style="list-style-type: none">○国道のカーブに水がたまる (B)○伊豆縦貫道の工事により水がたまっている場所がある (C)○降雨時の河川の氾濫 (C)
---	---	--	---	--

課題

農業・林業の再構築 <ul style="list-style-type: none">○農地を集約化して産業として成り立たせたい (A)○山林を伐採して、若者が魅力を感じる産業へ再構築したい (A)○山は農家が林業も営んでおり、炭焼きが行われ山もきれいに維持管理されている (A・C)	コントロール <ul style="list-style-type: none">○縦貫道建設と自然景観のバランス (色彩) (C)○山の法面崩壊しないよう、山の太陽光パネルは規制！○水害と景観のバランス (A)○コンテナなどの工作物のコントロールが必要 (C)
--	---

課題

農業・林業の再構築 <ul style="list-style-type: none">○農地を集約化して産業として成り立たせたい (A)○山林を伐採して、若者が魅力を感じる産業へ再構築したい (A)○山は農家が林業も営んでおり、炭焼きが行われ山もきれいに維持管理されている (A・C)	コントロール <ul style="list-style-type: none">○縦貫道建設と自然景観のバランス (色彩) (C)○山の法面崩壊しないよう、山の太陽光パネルは規制！○水害と景観のバランス (A)○コンテナなどの工作物のコントロールが必要 (C)
--	---

ワークショップの様子（第2回）



グループの代表者による発表



第2回結果まとめ

<テーマ>
『基本目標（将来像）と景観形成方針について考えよう！』

凡例 良い点・重要に感じた点、修正してほしい・疑問点、提案、その他意見

※主な意見を掲載しています

基本目標（案） <ul style="list-style-type: none">稲梓の里地里山を守りたい ひと・農・自然と共に生きる稲梓の景観づくり 山と谷、段丘が織りなす稲梓の里地里山は、四季折々の自然に包まれ、農の営みと人々の暮らしが共に息づいています。自然を大切にしながら、先人たちが育んできた田畑や山林、集落、伝統行事などの風景を次の世代へと引き継ぐため、「ひと・農・自然」が共に生きる稲梓の景観づくりに取り組みます	表現 <ul style="list-style-type: none">○きれいな言葉、理想的 (C)○「守りたい」では弱い。攻めの姿勢がほしい (B)
景観形成方針（案） <ul style="list-style-type: none">1 山・川の豊かな自然環境と美しい農地景観を守る<ul style="list-style-type: none">● 地域を囲む山々の緑豊かな景観を守るため、森林の整備や管理を進めます● 山頂からの眺めや、特徴ある山並みを守ります● 河岸段丘の水田をはじめとする美しい農地を守り、再生させていきます● 山あいには広がる田畑やわさび田など、この土地ならではの農地を守ります● 稲川や稲生沢川などの川が流れる水辺の景色をきれいに保ち、地域の暮らしや観光に生かします● 良好な景観を損なうおそれのあるものに対して、適切に改善し、少しずつ整えていきます (例：太陽光発電設備、屋外広告物、目立つ派手な建物、鉄塔・基地局アンテナ等)2 地形や景観資源を生かした魅力ある集落地景観を育てる<ul style="list-style-type: none">● 周辺景観と調和した建物や外構づくりを進めます● 地域の歴史・文化を感じさせる景観資源（社寺や社寺林、古木、石垣、祠、道祖神、史跡等）を守り、風景づくりに活かしていきます● お祭りや伝統行事等の文化的な風景をこれから大切に、継承していきます● 公共の建物や大型施設は、まわりの景色とよくなじむデザインにします● 味わいのある古い家や建物は修繕し、まちの魅力として生かしていきます● 良好な景観を損なうおそれのあるものに対して、適切に改善し、少しずつ整えていきます (例：太陽光発電設備、屋外広告物、派手な建物、鉄塔・基地局アンテナ等)3 地域を印象付ける主要道路の景観を向上させる<ul style="list-style-type: none">● 道路沿いの建物や看板などは、まわりの景色に合うように工夫し整えていきます● 道路付属物（ガードレール、防護欄、街灯等）は、色や形に見えを配り、景色になじむように工夫します● 道路や橋からの良好な眺めを守り、視点を整えます● 花や木を植えたり、わかりやすい案内板を設けたりして、「おちてなし」を感じられる景観をつくります● インターチェンジ（IC）の周辺には、周囲の風景と調和した景観をつくります● 道路沿いの雑草や派手な屋外広告物など、道路景観を損なうものは、少しずつ整えます	取組の主体 <ul style="list-style-type: none">○ 様々なことを「引き継ぐ」のが難しい（例 農業後継者の問題）（B、C）○ 市や地域外の人との協力があれば住民も「やってやろう」の気持ちになる（B）
森林・農地 <ul style="list-style-type: none">○ 高齢化で管理を担う人がいない、「管理」の生産化が必要（B）○ 森林の景観的な管理は難しい。県や国に頼るしかない（C）○ 農地の維持が大変で、耕作放棄地の管理も十分でない（B、C）○ 古道や山の道を活かす（ただし活かそうなのは小規模な山）（A）	水源・源泉 <ul style="list-style-type: none">○ 稲梓には「水（水源）」の保全という役割がある（A）○ 外から来る人（工場設置等）にも水質保全を意識してもらおう（A）○ 源泉があるので、温泉を活かしたい（A）
河川 <ul style="list-style-type: none">○ 河川の整備改修は多自然工法で（C）○ 河川管理にリバーフレンドシップ制度が使えていない（C）○ 河川沿いに歩道を整備できればウォーキングコースになる（A）	建物・外構 <ul style="list-style-type: none">○ 「まちの魅力として生かしていきます」とは具体的に何をやるのか（B）○ 建物へのルールが住民の負担になることを懸念する（B）○ 地域産材の活用が地域景観の向上につながる。林業再生が重要（A）○ 石垣の保全には市の補助などの費用面での支援が必要（A）○ 空き家バンクの登録が進まない（C）
景観阻害要素 <ul style="list-style-type: none">○ 例にある「屋外広告物」は「違法屋外広告物」としたほうがいい（C）○ 「鉄塔」のコントロールは難しいのでは（C）	道路 <ul style="list-style-type: none">○ 道路から見ると魅力的な景色をつくる。山には四季を感じる広葉樹林を（A）○ ガードレールや防護欄は茶系の色で！（A）○ （加地野では）道路わきに花を植える活動が広がっている（C）
イテネーティング <ul style="list-style-type: none">○ 伊豆縦貫道 ICの新設は地域の再生や魅力向上のきっかけになる（B）○ ICができることで、集落道路の往来が減り寂しくなるかもしれない。にぎわいづくりや、ICから降りてみたくなる風景づくりが必要（A）	